

みやぎ梅花

題字は曹洞宗宮城県宗務所梅花講長 伊藤 守 弘

宮城梅花 令和7年. 6. 15. 発行 第58号

発行所 曹洞宗宮城県宗務所
〒981-3117
仙台市泉区市名坂字檜町169-4
TEL 022-218-3801 FAX 022-218-3803



しがない凡夫とおろそかに

思いすごせし愚かさよ

無明の眠りの夢覚めて

尊き身をば今ぞ知る

御授戒御和讃 一番

『写真と歌詞』

元梅花流特派師範

眞源寺住職 齋藤 政裕

齋藤政裕先生には、今年も素晴らしい写真と文章を賜りました。

写真とテーマ解説の全文は、6ページに掲載させて頂きましたので、ぜひご覧下さい。

御挨拶



宗務所梅花副議長
熊谷 晴生

青葉繁れる好季節を迎え
益々ご清祥のこととお慶び申
し上げます。

講員の皆様におかれまして
は日々研鑽を積まれ詠道精進
されていきますことに深く敬意
を表します。

平素は宗務所梅花講発展
のためご理解とご協力を頂い
ておりますこと、また本年度
より宗務所所費と同事に梅花
講々員費を納入させて頂いた
きました。教区梅花講長並び
に関係者の皆様には併せて衷
心より感謝申し上げます。

さて昨年は太祖常済大師
瑩山禅師七百回大遠忌正當に
因み十月九日宮城県奉詠大会
を石巻市マルホンまきあーと
テラスに於いて慶讃させて頂
きました。更に昭和二十九年
当県梅花発祥の地にて開催で
きましたことは無上の喜びと
するところでございます。大

遠忌のテーマであります「相
承」とは太祖様の大切な教え
や誓願が代々正しく受けつが
れ我々法孫と信仰する者どう
しが和合和睦しながらその役
割や使命を果たさなければな
らないと理解します。詠讃歌
を通して正しい信仰に生きる
ことを改めて認識した大会で
ありました。

一泊二日の梅花流特別講習
会では五名の師範にお越しい
ただき充実した講習会であり
ました。

令和七年度梅花流全国奉詠
大会は五月十五日「祈り」と
「願い」と「誓い」と題して
沖縄アリーナに於いて開催さ
れ約三千人が参集し宮城県か
らは一五八名の参加でありま
した。本年は終戦八十年を迎
える節目の年であり加えて本
大会開催日時は米国から沖縄
が日本に施政権が返還された
記念すべき日として非常に感
慨深いものがありました。沖
縄平和記念公園には沖縄戦で
亡くなられたすべての名を刻
んだ「平和の礎」が建立され
ております。先の戦争で多く
の犠牲になられた皆様のご冥
福をお祈りすると共に我々後

人が平和を希求しなければな
りません。釈尊は「不害の教
え」を説いております。人を
殺すなかれ害するなかれと、
今も世界各地で戦争紛争が繰
り返され困難に見舞われてい
ます。今一度、仏教徒として
不戦を誓い世界平和を築くこ
とが必要でございます。全国
大会が平和の礎、伝道の集い

瑩山禅師 七〇〇回大遠忌慶讃 令和六年度 宮城県奉詠大会報告

令和六年十月九日（水）石
巻マルホンまきあーとテラス
にて参加者八七二名のもと、
瑩山禅師大遠忌慶讃に合わせ
た課題曲を奉詠し開催されま
した。

宮城梅花発祥の地石巻での
開催、そしてはじめての会場
ということもあり、気持ちも
新たに運営にあたりました。

清興の平林さん、北野さん
のお二人にも花を添えていた
だき盛會裏に終えることがで
きました。参加者からはすご
く楽しかったと大好評でした。

になったと感銘を受けた次第
です。

六月九日からは特派梅花講
習会を予定しております関係
者の皆様には宜しくご支援を
お願いいたします。

結びに講員の皆様にはご健
勝とご多幸をお祈り申し上げ
ご挨拶いたします。

令和六年度宮城県奉詠大会 に参加して

第十三教区金蔵寺講員

松本敬子

昭和二十九年に金蔵寺講
が発足し現在の講員は北村
郁子先生をお迎えし、ご指
導をいただいで十四年目に
なります。毎年仙台で開催
している奉詠大会ですが今
年は地元「石巻マルホンま
きあーとテラス」での開催、
さらには太祖常済大師瑩山
禅師七〇〇回大遠忌慶讃と
いう年に、十三教区の詠題



前列中央 松本 敬子さん

司を務めさせていただきまし
た。特別講習、合同練習、
金蔵寺での練習に励みまし
たが、本番は緊張もあり練
習のようにはいきませんで
した。何かしら成長できた
奉詠大会だったと思いま
す。私にとって御詠歌は、
苛立ち、悲しみ、辛さを癒
してくれる大切なもので
あり、何より大好きな
です！今後も講員一同練習
に励み多くの皆さんに御詠
歌の良さを知ってもらえる
う、いろいろな場所であ
り、できればと思います。

特別講習会報告

特別講習会に参加して

第五教区 洞昌寺講員

櫻井 ひとみ

この度、初めて特別講習
会に参加させて頂き県内各
地から百三十名の参加との
事、参加者の多さに大変驚
きました。洞昌寺講からは
五人で初級を受講させて頂
きました。不安もありまし
たが、開講式で参加者の皆
様と一緒に誓いからお唱
えをして行く中で心が癒や
される様に感じました。
そして五人の先生方の
講習では、法具の扱い方
のお作法や鈴鉦・撞木の
持ち方、呼吸の仕方、強
弱をつけて心を込めて声
に出すなど懇切丁寧に指
導を頂き大変勉強にな
りました。講習中にも様々
な楽しいお話しをして下
さりと、最後には講員の皆
様と一緒に大きな声でお



まよめの全体講習風景

唱えする事が出来ました。
また、懇親会では美味し
い食事と先生方の美声に酔
い各講員様の余興に笑い、
参加者と親睦を深め大変楽
しい二日間でした。
これから洞昌寺の長い
階段を登り仲間と一緒に講
習に励みたいと思います。

合掌

梅花流特派師範を終えて

第十三教区 宮殿寺

永松 隆賢 師範



永松 隆賢 師範

平成十九年に任を拝命し、
震災の影響で途中四年間の
断がありました。昨年の青
森県と富山県巡回で任期を
えました。これも、皆さまの
お力添えの賜物と心から感謝
申し上げます。

改めて私の任期中の中で印
象深かったことを振り返り
ますと、現在も続く講員不足
に依る梅花流衰退の進行で
した。各宗務所の様々な対応に
いかに現状が厳しいか痛感し
ました。複数教区の合同開催
が増え、梅花流未経験者限定
の講習などありました。また、
「唱える」から「うたう」と
表現され、二部合唱が取



り入れられました。このように時代の流れに合わせて、うと様々な方法が用いられ、特派師範もその対応に右往左往でした。

また、最近では感染症対策のために講師の抗体検査が義務付けられたり、動画配信による講習や昼食なしの半日講習としたりと、思えばかつて経験のない出来事ばかりで、指導者のもとより檀信徒議員皆さまにとっ

ては不安が募ることでしたでしょう。もちろん不安な事ばかりではなく、特に曹洞宗総合研究センターが平成二十五年に立ち上げた「梅花流詠讃歌プロジェクト」

(※梅花流の宗門における意義や役割、宗旨、教学上の位置付け、布教化における意義や課題などの視点から研究する)の関係者から、宗門における梅花流の歴史の詳細を間近に伺うことが出来、今後の梅花流発展の参考になると確信しました。

このように、梅花流特派師範という立場を頂きましたことで、梅花流の新たな魅力と大切さを知ることが

出来ましたことは、何よりの経験でした。

今後は、梅花流を通して沢山の方々が「ほとけの道」に導かれますように、県内の師範として詠道増進に勤めて参りたいと思いますので、一層のご指導ご鞭撻の程宜しくお願い申し上げます。

特派講師就任報告

高橋恵一先生が特派講師に任命されました。益々のご活躍をご祈念申し上げます。

新しい第一歩

第九教区 龍興院

高橋 恵一 師範



高橋 恵一 師範

令和七年度より曹洞宗梅花流特派師範を拝命いたしました大崎市龍興院副住職・高橋恵一と申します。

私は平成二十二年(2010)から梅花を始め、宮城県指導者養成所・宗務庁での研修員と勉強をさせて頂き、令和五年(2023)に二級師範となりました。それからたった一年でまさか特派師範へと任命させて頂くとは思ってもみず、この文章を書いている現在でさえ不思議に思えてなりません。

思い返してみますと、今までたくさん素晴らしい特派師範の先生方から学ばせて頂きました。始めた当時から憧れであり、その気持ちは年々増す一方でした。そして今も変わりなく持ち続けております。

しかし、今年度からは同じ立場となり、いつまでも憧れてばかりではいられません。憧受け身の気持ちではなく、憧れという気持ちを新しく自分の活力に変え、一步一步歩みを進めてまいりたいと思います。

梅花を習い始めてからとい

うもの、楽しいとき辛いときにはいつも梅花がそばにありました。何でもない日に気付いたら梅花を詠っていて、

「ああいつのまにかこんなに好きになっていったんだな」と実感した瞬間からさらに好きが増大しています。皆様に少しでも梅花を好きになつて頂けるように、微力ながら私も精一杯お手伝いさせていただきます。

一年目で分らないことばかり。上手くいく事もあるでしょう。大きな失敗もあるでしょう。傷つく事もあるでしょう。もしかしたら失敗・失敗・成功・失敗くりの確率になるかもしれません。もがきながらも失敗やお言葉を素直に受け止め前を向き、これからも研鑽を続けていく所存です。

最後になりますが、特派師範として私が経験した事をお伝えし、それが皆様の一助となれば幸いです。宮城県梅花流のさらなる発展と、梅花に携わる皆様のご多幸・詠道宣揚をご祈念し、ご挨拶にかえさせていただきます。

梅花流詠讃歌三級師範の
検定を終えて

第十八教区

佐藤 泰澄 師範



佐藤 泰澄 師範

の三級の範、梅花流詠歌
 たし、重ね、基礎の確認は
 練習を、苦手としていた
 も、あたりを中心、課題
 アヤ、え、込み、強弱表現、
 曲の、意、意識して取り組
 発声などを意識して取り組
 み、ご指導をいたした
 く、で、自分の課題がより
 明確になり、一つの、丁
 寧に改善して、いくことの
 切さを、実感しました。養成
 所講師としての自覚を持ち
 な、お学ぶことで、自ら、正
 し、お伝え、お作法を身に
 つけて、お伝え、お作法を身に
 再確認すること、が出来まし
 た。また、ご指導させていた
 所の皆さんが、真剣に稽古に

第二十三期養成所

第十六教区興福寺講

須田 蘭湖 詠範



須田 蘭湖 詠範

励む姿は、私にとっても大
 きな励みとなりました。梅
 花流詠讃歌に真摯に向き合
 う姿勢や、上達のためにひ
 たむきに努力する姿は指導
 する立場である私自身にも
 多くの学びをもたらしてく
 れていきます。皆さんとも
 に歩むことで、自分自身の
 精進の必要性を改めて感じ
 るとともに、梅花流詠讃歌
 を通じて共に学び、共に行
 ずることが出来る喜びを感
 じております。

今回の検定は一つの節目
 であり、さらに研鑽を積み、
 より多くの方々に詠讃歌の
 魅力を伝えられるよう努め
 てまいりたいと思います。

今後ともご指導・ご鞭撻の
 ほどよろしくお願い申し上
 げます。

昨年から二十三期養成所
初級課程に入所し早一年が
経ちました。私と梅花との
出会いは物心ついた頃から
祖母と母が講員さんとお唱
えしている「このころのやみ
をてらしめます」という歌詞
でした。歌詞の意味も分か
らないまま口ずさんでいた
ように思います。

以前から母からは何事も
学ぶことは自分の宝になる
はずだから養成所で梅花流
詠讃歌を学んでみるのも良
いのではと勧められてはい
ませんでした。そのような時、三
年前祖父が遷化し茶毘に付
されるときに方丈様方と講
員さん方で御詠歌をお唱え
くださり、大変心に響き私
も養成所で梅花をしっかり
学んでみたいと思ったのが
入所のきっかけでございま
した。

御詠歌は身近に感じてお
りましたが入所してみると
法具の名前、お作法、お唱
え等覚えることが沢山あり、
想像していたより難しく、
不安一杯のスタートでし
た。

初級課程が始まった頃
に、先生から「威儀即仏法、
作法是宗旨」のお話をして
いただきましたが、お作

法、節を覚えるのが初めは
覚えるだけで精一杯でなか
なからこまで考えてお唱え
をするのができまへんで
したが、二年目に入つた今
年は一つひとつの立ち振る
舞いを大切にするといいこ
とをしつかり念頭に置き今
後も学んでいきたいと思つ
ております。

また、昨年は初めて「太祖常済大師瑩山禪師七〇〇回大遠忌慶讃」梅花流宮城県奉詠大会に参加させていただき養成所では「三宝御和讃」をお唱えさせていただきました。多くの方々の前でのお唱えは大変緊張しましたが、梅花を共に学んできた仲間と気持ちを一々に合わせ、仏法僧それぞれのを心の糧とし感謝の気持ちを込めてお唱えをさせていたいただきました。

この一年を振り返って
みますと先生方の懇切丁寧なご指導をいただいたお陰と、同じ志を持つ仲間がいたからこそ梅花を通じて仏様の教えを学ぶ楽しさを感じることができました。これから更に梅花の詠道へ精進してまいります。

表紙説明

「しがなき凡夫とおろそかに

思いすごせし愚かさよ

無明の眠りの夢覚めて

尊き身をば今ぞ知る」



冬の枯れた芦原上を美しく飛ぶこの鳥は、サンカノゴイと言う、サギの一種でございます。普段は、この鳥、沼地などの広いヨシ原などに潜み、ほとんど人の目に触れる事は有りません。色彩も、枯れたススキやヨシと同様の薄い茶褐色をしています。また、人や天敵の動物が近づいても、ほとんど動かず、嘴を天に向けて身を伸ばし、一本のヨシやススキになり切り、よくよく目を凝らさなければ、見つける事が出来ません。言うなれば、擬態の達人（達鳥？）でありまして、よほどの事がないかぎり飛び立ちません。そしてほとんど同一の場所に留まり、近くのカエルなどの小動物を食べる、言うなれば、サギ類の中でもごく地味な鳥の一つでございます。

今年の冬一月末、私のこの地味な鳥のイメージが激変しました。

日暮れ前の、周囲が夕日で薄く赤く染まってきた広い湿原の中、突然、一羽の鳥が夕日に向かって低空を飛び立ちました。夢中でレンズを向けシャッターを押し続けました。写っていたのはこのサンカノゴイの美しい飛翔する姿でした。普段目に入る薄褐色の羽の下に、こ

んなにも美しい紫色の羽色を持っていたとは思ってもありませんでした。夕日を浴び、それがまた一段と光り輝き、羽衣を羽織った如きその姿に、心から感動させられました。正に、命が躍動し、輝くすばらしい一瞬でございました。

自ずと「御授戒御和讃」一番の歌詞が思い起こされました。

「しがなき凡夫とおろそかに 思いすごせし愚かさよ 無明の眠りの夢覚めて 尊き身をば今ぞ知る」

いかなる人物であっても、また、どのような生物であっても、それぞれに他と比べる事が出来ない素晴らしい存在の価値や命の輝き、役割を必ず持っています。「一切衆生 悉有仏性」ですよね。それを、自他ともに気づき、認め合い、高め合い、良き実践をしていく、そのような姿が仏様の教えの核心であり、また梅花道の本来の姿ではないでしょうか。改めてそのような事を確認させられたひと時でございました。

合掌

元梅花流特派師範

眞源寺住職 齋藤 政裕

合格おめでとう
ございます

令和六年度は次の方が宗務庁検定で合格されました。

一級師範

石巻市 宮殿寺 永松 隆賢

二級師範

仙台市 鉤取寺 都築 達明

三級師範

栗原市 松岩寺 佐藤 泰澄

正流詠範

大崎市 石雲寺 宮本 育子

美里町 蛟善寺 工藤 敏子

二級詠範

七ヶ浜町 鳳寿寺 鈴木 こまき

栗原市 柳徳寺 莊司 史子

一級教範

石巻市 法山寺 星澤 茂子

宗務所検定会お知らせ

二会場で開催致します。

教階が削減され課題曲の範囲が広くなりました。先生にご指導を仰ぎ十分勉強されてから受検して下さい。

十一月七日(金) 石巻市 法山寺様
十一月十二日(水)～十四日(金)
宮城県宗務所

○検定料は**お一人四千円**

詳細は改めてご案内いたします。

宗務所講習会

今年度も希望教区にて開催します。

宗務所講師紹介

一級師範 佐藤 正明 師範

一級師範 齋藤 政裕 師範

一級師範 長谷 誠悦 師範

一級師範 永松 隆賢 師範

二級師範 都築 達明 師範

三級師範 宮本 貴心 師範

三級師範 本多 賢浩 師範

三級師範 藤澤 智洋 師範

三級師範 永井 直心 師範

三級師範 高橋 信弘 師範

三級師範 橘 智法 師範

三級師範 佐藤 泰澄 師範

他にも宗務所師範の先生方も多数いらっしゃいます。

令和七年度 特別講習会のお知らせ

期日 二月二十四日(月)～

午後〇時半 受付

二十五日(火)

午後一時 解散

《二泊二日》

会場

秋保温泉ホテルニュー水戸屋
TEL 〇二二一三九八二三〇一

受講料

・宿泊 二万四千円
・日帰り 一万六千円

申込

詳しくは、後日各講宛にご案内いたします。

講師

県内及び県外講師



令和7年度 梅花流全国大会報告



終戦 80 周年を迎えた今年、全国大会が沖縄で開催されました。全国から約 3000 名の講員師範詠範の参加があったと報告がありました。宮城県からは 158 名の申し込みがあり、全国でも最多の参加人数となりました。

開催された 5 月 15 日は沖縄が本土復帰した記念日ということもあり、戦災で亡くなられた方々への鎮魂と平和への祈念の大変意義のある大会となりました。

今回職員 3 名とご同行頂きました師範会の皆様と、「ひめゆりの塔」と平和記念公園内にある「宮城の塔」にも訪れ、「追弔御和讃」「戦災精霊供養御和讃」を献詠しご慰霊いたしました。

